

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和4年8月9日(火)
9時52分開会 11時19分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第2委員会室
- 3 出席議員 委員長：口田邦男 副委員長：山下清美
委員：川上 均、中河つる子、
議長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦、事務局次長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 所管事務調査について
(2) その他
- 4 会議録 別紙のとおり

委員長（口田邦男）：皆さんおはよう。時間が早いですが全員揃っているので只今から厚生文教常任委員会を開催する。なお、深沼委員、高橋委員においては欠席である。なるべく短い時間で終了できるようお願いします。

（1）所管事務調査の実施について

委員長：議件の 1 件目であるが、所管事務調査について。道外行政視察事後調査ということである。7 月 12 日から 15 日の視察研修を終えて、各委員から本町の取り組みの現状、課題と視察を受けた改善方策についてあげていただき、関係課の取り組み状況の確認を再度行う必要があるかどうか確認する。まず一つ目、スポーツ振興によるまちづくりということで提案申し上げる。ご意見頂戴する。簡単に言えばどういうことか局長説明願う。

事務局長：今回、5 月に関係課の調査を行った上で、本州の方に視察に伺ったわけであるが、本州の視察を終えた後で、関係課の方に聞くべきところがあるかどうかというところである。もし、もう一度関係課の話を書くところがあれば再度調査を行った上でまとめに入っていく。もしなければ前回の調査、それから 7 月の視察を踏まえてのまとめに入っていく。その部分で再度役場の方の現課調査をするかどうかの確認ということである。

委員長：中河委員何かあるか。

中河委員：まちづくりに活かすというようにして欲しいと思うが、なかなか上富田町のやっていることは一朝一夕にできることではないと思い聞いてきた。本町でもいろいろなスポーツをやっているが、色々と意見を出し合ってまとめれば良いなと思っている。いいところは見習いたいと思うが、そのいいところが本町の体育館を作った時に、どこをどういう風に活かしていくかというのはなかなか難しいところがあると感じて帰ってきた。せっかくできる体育館だから、町民の人たちに、若い人から年寄りまで健康づくりのためにも活かせるような施設になればいいと思っている。

委員長：現時点では関係課を呼んでという話は必要ないということではよろしいか。

中河委員：今のところは、私たち自身も行っている間、そんなに意見を交わしたわけではなかったと思う。文書でそれぞれ報告を出しているかもしれないが、もう少し話し合いができたらいいと思っている。

委員長：次、川上委員。

川上委員：改めて担当課に聞くこともないと思う。前回お話を聞いた中では、ある程度の考え方は聞かせていただいたので。今回、上富田町でスポーツ振興とまちづくりの部分がかかり明確に目標をもってされていたというところでは非常に参考になったということと、一方でまちづくりと合わせて体育施設が町民の健康寿命を延ばすという、非常に町民の健康増進に向けて色々と活用されているという部分では、何かそういう視点がもうちょっと清水の町にも、わが町の新体育館についても取り上げてほしいのではと思った。そういう部分で改めて聞き取りしなくてもいいと思っている。

委員長：山下委員。

山下委員：前回、清水の場合はやっていることを聞いたので、改めて確認する事項はない。

委員長：今、3 人の意見を聞いた段階では、改めて協議する必要、段階ではないということ

まとめたいと思うがよろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：それではそういうことでお願いします。次に子育て支援であるが、これについてはどうか。
川上委員お願いします。

川上委員：子育て支援についても改めて豊橋市の取り組みについて色々聞かせていただいて、清水としても十分取り組みはされているという部分。あと、今後課題となっているのはSNS等を使ってどのように情報発信していくかという部分なのかということでは、改めて聞き取りするような事ではないかと思っている。

委員長：中河委員どうか。

中河委員：豊橋市は市として大きいので全てあてはまるということではないけれども、よくやっていると思った。清水もやっているという感じはしたので、打ち合わせは必要ないと思う。

委員長：山下委員お願いします。

山下委員：改めて担当課から聞く部分についてはない。

委員長：そういうことで皆だいたい同じ意見である。私も清水は負けないだけやっていると思うし、視察して今すぐ取り掛からなくてはならないというような内容はないと思ったので、わざわざ協議する必要はないということで締めたいと思うが良いか。

(「はい」との声あり)

委員長：次に郷土教育についてであるが、山下委員から伺う。

山下委員：郷土教育に関しても清水町のやっていることについては前回聞いた部分で十分だと、これ以上聞く部分についてはないと思う。

委員長：川上委員。

川上委員：同じく特にこれ以上の聞き取りは必要ないと思う。

委員長：中河委員。

中河委員：私も同じで必要ないと思う。

委員長：それでは郷土教育についても改めて協議する必要はないということで良いか。

(「はい」との声あり)

委員長：次にまとめであるが、調査の内容についてまとめるということで、盛り込むべき内容、項目を整理するために委員から意見を求めるということである。事務局から若干説明をお願いします。

事務局長：お手元に所管事務調査報告の様式をお配りしている。今回の調査のまとめということで、所管事務調査の報告を作成することになるわけだが、あらかじめ冒頭の部分の書き出し1ページ目に、このような形態で今回の行政視察、それから前段の5月18日、2

7日の各課の調査の部分について日程を入れて調査先を提示した上で報告に入っていくという形式の書面を作っている。調査の結果というところから今回の役場内での調査、それから実際に視察に行った部分での調査の状況と、総括の部分で委員会としての考え方をまとめて報告書にするという形になろうかと思う。4番の調査の結果というところの冒頭については今回の調査の目的ということで、スポーツ振興によるまちづくり、子育て支援について、郷土教育についてという3点を調査項目として取り掛かった部分の目的、考え方を書いている。スポーツ振興によるまちづくりについては、現体育館のこれまでの役割と老朽化に伴っての建て替えに向けて、今後の人口減少等の環境も踏まえて新しい体育館の検討が今進められている。また、もう一つの事例としては、御影アイスアリーナが道内で少ない屋内アイスアリーナという施設の特徴を活かして、大会合宿などに利用され交流人口それから移住者の獲得にも寄与しているという現状。まちづくりにおけるスポーツ施設のありようについて本町の現状と課題、先進地の取り組みを調査したということでスポーツ振興によるまちづくりについての取り掛かりを整理している。子育て支援については、少子化と人口減少が進む本町において、安心して子育てができる環境づくりは定住者の確保とともに、町民にとって重要な行政サービスの提供であり、本町の取り組みは住民から評価が高い状況である。一方で子育ての環境は日々多様化しており、より先進的な取り組みについて調査したということで、一定の自分の町の評価を持ちつつも、よそに見に行ったきっかけというような形でまとめている。3番目の郷土教育については、十勝開墾合資会社が熊牛農場を開設してから125年、清水町の開拓にゆかりのある渋沢栄一に関して、町内でも改めて注目されている。郷土史の学校教育や町民への普及と、郷土史料の活用についての現状の調査と、渋沢栄一の史料展示の見学を行ったというふうにしていく。今まとめた目的のところでは不足しているところがあれば加筆すべき点をご意見いただきたいと思う。そして、次の本町の取り組みの状況についてということで、5月18日の所管課の調査について、それぞれ委員の方々が感じた課題等について、こういったところを書くべきではないかということのご意見をここで伺っておきたいというふうに考えている。そしてその下にそれぞれの視察先の項目、スポーツ振興によるまちづくり、子育て支援について、郷土教育について、実際に視察を行った上での確認した事項、特筆すべきポイント等を上げていただいて、それをこの中に整理していきたいという考えである。総括の方については、調査を終えて今後の町政に取り入れるべき参考事例、方向性などを総括としてうたっていくわけであるが、今回、それぞれの委員の皆様から頂いた個別の報告書の中で、今後の方向性を書かれている方が3名いらっしゃるが、方向性がそれぞれの認識の中で統一されたものではないというところがあり、委員会としての総括のまとめとしてどういった方向性で意見をまとめるかということをおおまか整理しておく必要があるかと思っておく載せている。その他、子育て支援、郷土教育についてはそれぞれ説明の概要としての特筆事項、方向性を委員会の中でピックアップしていただいて、それに基づいて皆さんからいただいたそれぞれの報告の中、あるいは行った先とのやり取りの中から総括の中に盛り込むという整理になると考えている。この項目に沿って、これは書いておくべきではないか、ということをおおまか項目建てとしてご意見をいただいて、まとめの作成に向けた準備としたいと考えている。もう一つの資料は会議録とそれぞれの委員の報告をまとめた冊子を用意しているが、参考にとりどころ見ても結構だが、二枚ものの項目建てに沿って意見のまとめをしていただければと思う。

委員長：今事務局から説明があった。今回の調査の目的としてスポーツ振興によるまちづくり、子育て支援、郷土教育についてこの文書の内容でいいか、あるいは書いた方がいいということがあればお願いします。山下委員どうか。

山下委員：これぐらいでいいと思う。付け加える部分はないと思う。

委員長：中河委員どうか。

中河委員：この内容で結構だと思う。

委員長：川上委員どうか。

川上委員：目的についてはこれで、絞った中でいいと思う。

委員長：では、このとおりでよろしいということで。次、本町の取り組みの状況についてということで、5月18日の所管課調査、各委員が感じた課題について思いつくことがあれば。

山下委員：本町の取り組み状況で、スポーツ振興によるまちづくりについて町の話聞いた中では、今スポーツ施設として、町民の施設として考えているという部分があった。またアイスアリーナという町外から来ている部分があるので、その辺の絡みの中でどうしていくのかという部分が、町としてもまだ平行してやっているという感じであったので、これについては体育館の施設、取り組みについての状況であるので、今そういう状況だったという感じしかない。これから体育館については町民にも聞いて懇談会も開くみたいなので、そういった部分が体育館の建設に向けて取り組んでいるところという状況だと把握している。

委員長：中河委員何かあるか。

中河委員：今やろうとしている町の新しい施設と、今ある施設との併せ持った振興ということでやっていくのだと思う。深いところはわからないところがあるが、山下委員と同じような意見である。

委員長：川上委員何かあるか。

川上委員：前回調査した時には、ここ3年くらいコロナで活用がうまくいっていなかったという部分もあったと思う。そういう話を聞きながらも今後の新しい体育館建設に向けて、現状の中でどういったものを作っていかという明確な意思というのが感じられない。あくまでも町民の意見を聞きながら検討委員会も含めて意見を聞きながら進めるというのもわかるが、町としての明確な建物に関するコンセプト、意思、今後どのようなものを作ってどうまちづくりにつなげていきたいという部分が、ちょっと感じられなかったというのが課題として感じた。

委員長：新体育館の建設に関して、町独自の考え方を明確にすべきということで良いか。

（「はい」との声あり）

委員長：次に子育て支援について感じたことを上げていただきたいが、中河委員何かあるか。

中河委員：総じては色々清水町もやっていると思っている。そういう中で見てきたところが参考にできるかどうかわからないが、清水町としては総じてはやっているのではないかと
思っている。

委員長：川上委員。

川上委員：今後に向けて、例えば病児保育だとか、コロナでお母さんが働けなくなって子守りしなければならぬ、預け先という部分が全国的にも問題になっている部分では、清水もその辺について課題としてあると、今回調査した現状の中で少し感じたところ。

委員長：山下委員。

山下委員：5月18日の調査の中で清水町の取り組みについては色々聞いて、かなり充実して行

っていると、管内で比べても一生懸命にやっているし、そういった部分の支援は一生懸命されていると思う。それ以外にも、子育て支援に全体の中でつながるかもしれないが、学童保育だとか現状の中で大変な施設もまだあると思う。その辺についての手立てという部分もちょっと課題に残るという感じがする。清水も幼稚園が来年で終わって一つになるし、学童についての方向性がまだ見られなかったので、その辺の整理も課題として残るという気がした。

委員長：山下委員が言ったように、学童について方向性が定まっていないと感じるということでまとめて良いか。

（「はい」との声あり）

委員長：次に郷土教育について。山下委員。

山下委員：15日に聞いた中では詳しく聞けなかったけれども、史料館を改装するという中で郷土史料があちこちに分散している。体育館の倉庫にあたり、御影支所の倉庫にあたりということで、さまざまところに分散されているので、そういったものを含めて、今後史料としてどうしていくかという部分、今後史料に関してはやっていく必要があるという気がした。ちょうど125年ということで、きちんと整理していく必要があると思うので、展示だけを整理するのではなくて総体的な把握と展示も整えていく必要があると感じた。

委員長：川上委員。

川上委員：この間話を聞いた中では、図書館の史料を中心にやっているということなので、山下委員が言ったように、他のさまざまな史料を今後どうしていくのかという部分は課題にあると思うが、現状、図書館のスペースの中では難しいと感じている。

委員長：中河委員どうか。

中河委員：郷土教育ということで言えば、渋沢栄一ばかりではなくて松浦武四郎とかもいる。史料館としては、渋沢栄一だけでなく他に携わった人たちのものも一緒にやるのが清水町全体としての郷土教育としては必要という気がしている。

委員長：郷土教育について、史料が分散されているようだが、整理していただいて、渋沢栄一だけでなく過去に清水町に携わった人たちについても整理してもらい、教育に活かしてほしいという方向性でまとめたいと思うが良いか。

（「はい」との声あり）

山下委員：付け加えて、郷土史料について申し上げたが、郷土教育については付随する部分としてとらえておいていただければと思う。

委員長：次にスポーツ振興によるまちづくりということで、和歌山県上富田町に行ってきたが中河委員何かあるか。

中河委員：近隣の町村とも協力しながらやっているというところがあるほどと思って聞いていた。自分の町で全てやるのではなく、他の町村とも協力しながらやっているのを見て、そういうことも考えていくといいと思った。

委員長：川上委員何かあるか。

川上委員：近隣自治体との連携という部分は確かに今回必要性を感じたということと、やっぱり人づくりと思った。主体的に動く職員なり中心になる人がいて、連携をしながら取り組んできたという部分では、非常に熱心に取り組んでいたという印象を感じた。核施設になるようなものを作って、それを基にまちづくりをやっている。町民の健康増進も含めてやっているという部分を今後の参考にしていく必要があるのではと思った。

委員長：山下委員何かあるか。

山下委員：一番強く感じたのは、川上委員が言われたように人で作られてきた総合施設だと感じた。地理的な条件の中で、周辺の田辺市と白浜、上富田で一体となり地域で役割分担をしながらやっていると感じた。健康のまちづくりという軸を持ちながら方向転換していったという部分で、今こういった形で開いているということであったが、人が携わっていったというところが大きいと、指定管理に関わっている人たちについても、担当者が人材を見つけてきて施設を運営しているということも人が関わっている。今回社会教育施設から振興課に所管が変わったということで、ただのスポーツ施設ではなくて地域振興、交流の場ということで振興課が担当となってこれから進めるという事、いい形になっているという気がする。清水町に合わせていくとかなり難しいという気がするのを感じた点である。

中河委員：町が一体となってやっているということで力を発揮していると思った。

山下委員：もう一つ上富田の中で屋内体育館はどうかと聞いたら、うちよりも古い体育館でそのまま使っているという話があったので、施設の取捨選択というか、ここに特化したという部分が見られた部分も特筆事項かと思う。全ての施設をやるのではなくて、ここに特化した中でやっていたという部分を感じられた。

委員長：色んな意見ありがとう。いずれにしても上富田は地形的にも我々とはちょっと違うと感じた。清水にそれをあてはめるのは無理な話だが、人づくりとかまちづくりというのはどんな方法であろうとあてはまるのではないかと思う。この件については良いか。

（「はい」との声あり）

委員長：次に子育て支援について、豊橋市である。これについて何かあれば。川上委員。

川上委員：未来館のような施設は必要と感じたのと、放課後の児童クラブの中で地域の人たちが子供たちに色んなことを教えて、色んなことをやっているという部分は、あれだけの大きな都市の中で全体的に取り組みがされているというのはすごいことだと思う。清水として学童の中での地域ボランティアとの連携というか、そういうものをもう一度作っていくのが大事なことだと、今回視察の中で非常に残った点である。

委員長：中河委員。

中河委員：学童保育のような放課後の地域の人たちに協力してもらいながらやっているという話で、協力してもらえる人を募る時に、知っている人から紹介されてというような形で放課後の過ごし方をやっていたというのは、以前、清水もやっていたことがあるので、人材活用しながらできるのではないかと思って見てきた。地域の人たちにも協力してもらいながら子育てを皆でやっていくという方向というのは、豊橋を見ながら本町でもできると思った。

委員長：山下委員どうか。

山下委員：スタートとしては豊橋の子供たちを地域皆で育てようということで、豊橋子育て応援

宣言を発表して、色んな部分で経済的な負担以外の、環境だとか充実を市ぐるみでやっていると感じた。特に相談に来られない方のケアについてどうなのかと話しを聞いた中では、子供若者総合相談支援センターを設置しながら、一週間ずっと相談を受けている場所があるようで、子供からの声、言えない声については周りがしっかり見て連絡取れるような体制ができている話があった。担当者の方が言うには、子育て支援はやることはどんどんやっていくが、本当に子育てをしている方々が何を求めているのかという部分にアンテナを張っていると話していた。全体で子供を育てようという取り組みとして、男女雇用参画にも力を入れているようで、豊橋市では子供が年間100名くらい生まれたようだが、その中で男性職員3分の1の方が育児休暇を取っているということで、率先して男女雇用参画をされているという気がした。中小企業に広めていくのが課題と担当者は話していたが、まずは率先して市の職員がやっているという気がした。市としてもそういった雰囲気作り、環境作りをやっているという気がした。

委員長：川上委員。

川上委員：付け足して言えば、SNSをどう活用していくか。情報を必要としている人に対して、どのように発信していくかという部分については今後参考になる部分、非常に苦慮してやっていると感じた。今後色んなSNSを活用した中でやっていく必要があると感じた。

委員長：豊橋市と清水町では人口もかなり違う中で、市でありながら、対象者も多い中でこのようにやっているということは評価できるのではないかと思う。これだけはぜひ真似をしたいと思うところはなかったと感じたが、中河委員いかがか。

中河委員：以前やっていて今はやっていないという部分で、もう少し清水でもやれるかなと思っている。

委員長：次に郷土教育について。山下委員。

山下委員：渋沢史料館の施設見学だけで終わったが、郷土教育につなげるという部分は歴史をしっかり目で見るとするのは郷土教育につながるという気がした。また、公園の一角、飛鳥山公園ということで、桜の名所としても整備されたということ。その一角に渋沢史料館があって、中は渋沢栄一の功績、色んな関係が一目できた。周りの施設として1917年に作られた洋風の茶屋、晩香蘆や青淵文庫もあり歴史を感じられた。郷土教育については見るというのが大事という気がした。その中で背景、人というところも大事。ただやるというだけではなくて、どういった気持ちでどういった心でやってきたのかという部分も史料を見ながら感じられたので、そういった部分でその人の生きざま、なぜそうしたかという部分が学ぶべきところという気がした。

委員長：川上委員。

川上委員：特に考えはないが、渋沢栄一がどういう考えで生涯を終えたのか。印象に残ったのは事業家としてよりは、晩年、事業を一切離れて人のために役に立つことに傾注して過ごしたというところは印象に残ったところ。

委員長：中河委員どうか。

中河委員：史料館で印象に残った点は、姿を真似るというのではなくて考えを真似ることがいいのだという言葉があった。

委員長：史料館については、渋沢栄一は色々なことに関わっていたというのを改めて感じた。各々の感想で終わらせたいと思ういかがか。

(「はい」との声あり)

委員長：次に総括。事務局長から説明をいただく。

事務局長：只今、視察の感想、ポイントについてそれぞれ委員からご発言いただきましたが、総括については今の感想の部分に加えて特筆すべき項目、そしてそれを本町の行政に取り入れるべき参考事例として、こういった方向性でというところを総括内でまとめていく必要があると思う。スポーツ振興、子育て支援、郷土教育それぞれ説明の概要と特筆すべき事項、目指すべき方向、それをピックアップしていければと、先ほどの意見で終わりというところもあるかもしれないが、清水町に取り入れる部分として、そのままでは取り入れる部分が多いところもあるかもしれないので、こういったところを参考にすべきとかいうところを総括まとめの中で書いていくところかと思うが、特にスポーツ振興の部分について、先だって頂いた各委員の報告の中で、清水町を目指すべき方向についていただいているご意見が、方向性がそれぞれの委員で分かれている部分があり、今回の所管事務調査として委員会全体の意見としての目指すべきところをどういった書きぶりにするかというところは、ご意見頂いて整理する必要があると考えており、三人の意見を参考に載せている。これらを踏まえてそれぞれの項目の総括に載せるべき事例、方向性についてご意見を頂きたい。

委員長：総括に関して3人の報告書から項目が出ており意見があるが、合わせて事務局で文章化していただきたい。次に子育て支援、郷土教育について特筆すべき項目があれば出していただきたい。山下委員。

山下委員：豊橋市の関係で色々な部分で特記事項があったが、目指す方向というか、これから必要なのはやはり相談に来られない方たちもしっかりと声を拾うような体制を作っていく必要があると感じた。川上委員も言っていたように、SNSも駆使して情報発信したりしているということ。相談に来られない方も気軽に来れるような窓口も常時設置している。また、周囲にアンテナを張っている部分もしっかりと目指していく必要があるという気がした。

委員長：川上委員。

川上委員：山下委員の言ったとおりで良いと思う。

委員長：中河委員。

中河委員：子育てというのは地域皆で協力して、協力体制をとってやっているところが清水町にもやっつけていけばいいと思う。

委員長：次に郷土教育について特筆すべきことがあれば。

(「特になし」との声あり)

委員長：休憩する。

【休憩 11:03】

【再開 11:09】

(2) その他

委員長：再開する。次にその他、視察研修の決算書を確認し、議員会及び参加者への返金を確認

するということで事務局より説明を願う。

事務局長：(視察研修についての決算について別添資料により説明。)

委員長：内容について良いか。

(「はい」との声あり)

事務局長：所管事務調査報告書を最終的に今回は皆さんで確認して議会に出さなければならないと思う。先ほど頂いた意見と二人の委員さんの確認を踏まえて、まとめた内容を事前に委員長、副委員長にご覧いただくが、全体での確認について委員会を開催して整理しなければならないと思う。なので、例えば26日の全員協議会の後に委員会の予定を取っていただければと思うが。

委員長：26日の全員協議会終了後に開催することとして良いか。

(「はい」との声あり)

委員長：それでは26日に予定をし、2名の方の意見を聞いてまとめて進めたいと思う。以上で厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会 11：19】